

## 新聞に見られる「おばさん」の使い方について

加藤 恵梨

「おばさん（小母さん）」を辞書でひくと、「他人である年配の女性を親しんでいう語。また、大人の女性が子供に対して自分自身をさしていう語」（『大辞林 第四版』、p.395）と記述されている。しかし、他人から「おばさん」と呼ばれると、不快感を抱く人が多いことが先行研究で指摘されている。現在、「おばさん」はどのように使われているのだろうか。本研究は新聞を資料とし、主に投書において「おばさん」がどのように使われているのかを明らかにすることを目的とする。

遠藤（1992）はアンケート調査に基づき、世間が考える「おばさん」像について、I「ずうずうしい」「自己中心」のような性情に関するもの、II「喫茶店でねばる」「スーパーのレジに割り込む」のような行動面をみたもの、III「似合わない服装」のような外見によるもの、の3つに大別している（p.162）。また、新聞の投書において「おばさん」が用いられている場合、自分から名乗っているものには、「おばさん」を行動的、したたかさ、たくましさで満ちる人物として積極的に評価した一種の居直りが感じられるのに対し、他人から「おばさん」と呼ばれることには不快さを訴えており、この不快感は、先のアンケート結果の多数を占める「ずうずうしさ」「自分勝手な行動力」を意味するからであろうと指摘している（p.174）。

遠藤（1992）から約30年がたった現在、「おばさん」はどのように使われているのだろうか。「朝日新聞」「読売新聞」「毎日新聞」において、「おばさん」が1年間にどれくらい使われているかを、現在（2021年）から5年ずつ遡りながら1994年まで調べた。その結果をまとめたものが表1である。

いずれの新聞においても2020年8月1日～2021年8月1日が最も「おばさ

表1 新聞における「おばさん」の使用

	朝日新聞	読売新聞	毎日新聞
2020年8月1日～2021年8月1日	99件	66件	49件
2014年8月1日～2015年8月1日	162件	110件	144件
2009年8月1日～2010年8月1日	205件	114件	142件
2004年8月1日～2005年8月1日	276件	234件	217件
1999年8月1日～2000年8月1日	423件	194件	279件
1994年8月1日～1995年8月1日	215件	117件	152件

ん」の使用が少ない。これは、他人を「おばさん」と呼ぶことに不快感を抱く人があるということが、世間に広く認知されるようになったからであると考えられる。

次に、2020年8月1日～2021年8月1日に「朝日新聞」で使われた99件に注目する。それらの具体的な使用を調べたところ、上位3つは表2のような使い方であった。

表2 「朝日新聞」における「おばさん」の使用

	「おばさん」の使い方	件数
1	女性自身が自称として用いている	22
2	子供が母親と同じくらいか、それより年上の女性を呼ぶときに用いている	18
3	ある人が女性を批判的に呼ぶときに用いている	10

表2のように、最も多いのは、「女性自身が自称として用いている」ものである。遠藤(1992)で指摘されていた『「おばさん」を行動的、したたかさ、たくましさに満ちた人物として積極的に評価した一種の居直りが感じられる」ものはほとんどなく、(1)のように自虐的に使っているものが多いのが特徴である。

- (1) 「先輩が後輩を助けるのは当たり前。もらったものは次に回さなきゃ。おせっかいおばさんかもしれませんけど」(「朝日新聞」2021年4月4日、56歳女性)

なお、(1)は50代の女性が自身のことを「おばさん」と呼んでいるが、「おばさん」を自称として用いている年代は2020年8月1日～2021年8月1日では70代が最も多かった。2000年代前半では30代の女性が自身のことを「おばさん」と呼んでいるものが見られたが、現在ではそのような例は少なくなっている。

また、3番目に多い「ある人が女性を批判的に呼ぶときに用いている」ものは、遠藤(1992)の分類のうちの「Ⅰ『ずうずうしい』『自己中心』のような性情に関するもの」や「Ⅲ『似合わない服装』のような外見によるもの」による批判は少なく、「Ⅱ『喫茶店でねばる』『スーパーのレジに割り込む』のような行動面をみたもの」による批判が多いことが分かった。

#### [引用文献]

遠藤織枝(編)(1992)『女性の呼び方大研究——ギャルからオバサンまで』三省堂。  
松村明(編)(2019)『大辞林 第四版』三省堂。

(かとう えり・大手前大学准教授)